



おんなの駅でもウコンやウコン商品を販売しています！

右者来ル九日早天出立、北谷差入読谷山一宿二而、国頭間切并恩納間切諸所江鬱金堀取廻勤として被差越候条、例年之通夫手当無滞可被申渡候。此旨申達候。以上。

ウコンの栽培から製品化、積み出しは夫役という強制労働によって行われました。
また、こうしたウコン栽培を産物方役人が巡回して管理していた様子が記録された資料もあります。次の資料は1855年の記録です。
夫式拾四人

琉球産物方見聞役

野元一納右衛門

御用聞

小川市兵衛

染川周右衛門

卯 正月六日
親見世
産物方

こうして王府の政策によって栽培していたウコンですが、現在では健康食品として人気のある作物となりました。(幸喜)

《参考文献》

- 仲松弥秀 『恩納村誌』 恩納村 1980年
- 里井洋一 「近世琉球におけるウコン専売制の起源と展開―夫役がささえるウコン経営―」 『琉球王国評定所文書 第十八巻』 琉球王国評定所文書編集委員会 浦添市教育委員会 2001年
- 金城功 『近代沖縄の糖業』 ひるぎ社 1985年
- 来間泰男 「近世先島の人頭税と琉球の租税制度」 沖縄国際大学南島文化研究所編 『近世琉球の租税制度と人頭税』 日本経済評論社 2003年
- 「案書」 『琉球王国評定所文書』 第四巻 琉球王国評定所文書編集委員会 浦添市教育委員会 1990年
- 「年中各月日記」 『琉球王国評定所文書』 第九巻 琉球王国評定所文書編集委員会 浦添市教育委員会 1993年
- 『近世地方経済資料』 第九巻 小野武夫編 吉川弘文館 1958年